

第 37 回 ASF 総会・推進委員会報告

2023 年 6 月 22 日（木）16:30～18:30、「第 37 回 ASF 総会・推進委員会～創立 120 周年と第 2 期聖学院ビジョン～」を、聖学院小学校チャペルにて開催しました。

当日の様子をご報告します。動画（約 120 分）はコチラ⇒<https://youtu.be/gYAM5UVCDAY>

（各 QR コードから動画をご覧くださいませ）



第一部 礼拝

○メッセージ 学校法人聖学院理事・評議員 日本基督教団滝野川教会主任牧師 東野 尚志
「据えられた土台の上に」（コリントの信徒への手紙一 第 3 章 10 節～13 節）



学校法人聖学院は、1903 年の聖学院神学校創立から 120 年の記念の年を迎えています。1904 年、現在の中里の地に移転した際、聖学院神学校の中に滝野川教会が誕生しました。その後、1905 年女子聖学院神学部、1906 年聖学院中学校、1912 年聖学院幼稚園、1960 年聖学院小学校、1967 年上尾の地に女子聖学院短期大学が設立されます。1976 年聖学院と滝野川教会の協力により、緑聖教会（現在の聖学院教会）が生まれ出され、1978 年には聖学院みどり幼稚園が設立されました。その後、満を持して 1988 年に 4 年制の聖学院大学が設立され、総合研究所や大学院が整備されていく中で短大はその歴史を閉じることとなりました。

私は今から 14 年前、2009 年に緑聖教会の牧師として聖学院との関わりを持つようになりました。当時の聖学院長である小倉義明先生が、「聖学院ファミリー」ということをよくおっしゃっていたことを覚えています。聖学院と呼ばれるすべての学校、幼稚園が一つのファミリーであり、滝野川教会と聖学院教会の二つの教会もその中に含めてよいのではないかと考えています。120 年前の神学校設立以来、聖学院はキリストの上に建てられてきた学校・園として、すでに据えられている確かな土台の上に、それぞれに工夫を凝らしながら学びの場を作り上げてきました。建学の精神である「神を仰ぎ 人に仕う」を体現する人を育て、社会に送り出していく、先人たちが命を注ぐようにして取り組んできた営みを共に担い、聖徒たちの後に続くものでありたいと願っています。



第二部 ASF 総会・推進委員会

○峰田 将 ASF 推進委員長挨拶



近年学校を取り巻く環境は近年大きく変わってきています。IT 化、デジタル化は止められない流れとなり、少子高齢化はますます加速しています。入学生数の減少や施設の老朽化は聖学院各校の大きな課題です。私立学校の主な財源は授業料、補助金ですが、これには限界があります。寄付を募るオール聖学院フェロウシップの果たす役割は一層大きくなってきているのではないのでしょうか。今年には聖学院創立 120 周年の記念すべき、誇るべき年にあたります。聖学院は、神様の祝福を得てここまで進んできました。それを受け止めながら、感謝をもって次のステップを踏み出す覚悟を定めなければならない時に来ていると思っています。聖学院の教育活動をここで絶やすことのないよう、全力をあげて励んで

まいりたいと思います。ASF 推進委員の皆様方にも、ご協力、ご支援賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



○金子 健太郎 ASF 担当理事挨拶

本日は ASF 担当理事として 2 つの点をお話しさせていただきます。

一つ目は、ASF として昨年度までにすでに実施したことについてです。

昨年は遺贈寄付対応の環境を整えるため、三井住友銀行と遺贈に関する協定を締結しました。聖学院と関係のある企業様を訪問しての寄付をお願いや、寄付者へのヒアリング等も行いました。クレジットカードについて、従来の VISA、Master に加え、JCB、American Express、Diners の取り扱いを開始し、毎月や毎年のように継続寄付ができる仕組みも導入しました。

二つ目として、今後の検討事項についてお伝えします。「学校法人聖学院」プロジェクトへの寄付について、今年度はメニューから外しましたが、税額控除対象外として再度募集可能か検討します。その他、学校版ふるさと納税の導入、QR コード決済など寄付方法の多様化、寄付促進のための顕彰制度の拡充なども検討していきます。ASF 推進委員として選出されている方々の中から、各校の代表者にお集まりいただき、具体的な寄付戦略を話し合うチームの設置することなども検討しています。引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



○小池 茂子 学校法人聖学院理事長挨拶

「第1期聖学院ビジョン総括と第2期聖学院ビジョン-守りつつけていくものと、改革していくもの-」



この4月より学校法人聖学院の理事長を拝命しました、小池茂子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は現在聖学院大学の学長を兼任しておりますが、専門は教育学、成人教育学、社会教育という領域です。中高6年間をプロテスタントキリスト教の学校で過ごし、大学、大学院もキリスト教の大学で学びました。そこで出会った先生方に影響を受け、教育者になりたいと思うようになりました。教育というのは、その人の人生に対して影響力を持つものなのだとこのことを自らの経験を持って感じています。



私たちが守り続けていかなければいけないものとは、キリスト教主義に基づく聖学院の建学の精神「神を仰ぎ 人に仕う」を体現した人間を育てて社会へ送り出していくことです。自分の時間や、財力、労力を自らの利益のためだけではなく、他者や社会のために喜んで差し出せる人、他者と共に問題解決のために労していける人、そのような人間性を持ったリーダーを送り出すことが、聖学院の目指す最終的なゴールではないかと考えています。

学校法人聖学院は120年のその先を展望し、今年から5年間の第2期聖学院ビジョンを策定しました。2023年度から2027年度の各校の重点項目を掲げて、守りつつけていくものと同時に改革も行っていこうと考えています。

第2期聖学院ビジョンの5つの重点実施項目として、「教育研究質向上」「施設設備整備」「財政戦略」「人材・運営体制」「広報戦略・情報公開」を掲げ、新たな点検評価、自己評価のシステムを導入し、それを公表することで社会的な信用を得て、入学者を増やし財政的な安定基盤を築いていきたいと考えています。

よい教育をするためには、財政的な基盤というものが必要になってきます。オール聖学院が力強く歩んでいくためにも、本日ここにお集りいただきました皆様には、お祈りと、ご寄付という形でご支援を賜りますようお願いを申し上げて理事長のご挨拶とさせていただきます。



※第2期聖学院ビジョンについては
こちらをご覧ください。

⇒ <https://www.seig.ac.jp/vision/>

○学長・校長・園長挨拶

聖学院大学 小池 茂子 学長

聖学院大学は現在、政治経済学部、人文学部、心理福祉学部の3学部5学科と大学院3研究科を擁し、約2,000名の学生が在籍しています。少子高齢化の中、今年度の定員充足率は91%でした。聖学院大学はこれまでキリスト教精神に基づく一人ひとりの学生を大切にする教育ということで評価を受けてきましたが、他大学との競争に勝ち抜いていくためには、学生たちが使用する施設や教育環境の充実が必要になります。最先端のICT機器を備えた教室を付帯する学生厚生棟の建設や、大学院・社会人向けプログラム実施のための都内サテライト教室の設置などを計画しています。そのための経費をご支援いただきたく、よろしくお願い申し上げます。



聖学院中学校・高等学校 伊藤 大輔 校長

聖学院中高は、神から与えられた賜物を見つめ、他者に依存することなく自分自身を見つめるオンリーワン教育を実践しています。生徒たちには、学問を重ねていけば神様が創られた「世界が良い」ということが必ず見えてくる、それを喜ぶために我々が生まれてきたということを伝えています。「世界が良い」ということを体験し実感するためにも、良い学びの環境を準備したいと考えています。特に老朽化している体育館、中学棟の改築が課題となっていること、そのためには多額の資金が必要であることを皆様にお伝えさせていただければと思います。



女子聖学院中学校・高等学校 安藤 守 校長

本日(6/22)女子聖学院伝統の運動会を、代々木体育館で行いました。コロナの制限が緩和され、4月からはチャペル礼拝を再開、泉から流れ出る恵みが学校内のすみずみまで流れているかのようです。学校法人聖学院は今年創立120周年ですが、女子聖学院は2年後の2025年に創立120周年を迎えます。その2025年に向けて、体育館のリニューアル工事を計画しました。その第1期として今年度は屋根と外壁の大修繕を、総工費約7,000万円をかけて実施予定です。PTA、後援会から多額の寄付をいただき心から感謝しております。体育館のリニューアル工事は2025年まで継続予定です。お祈りとご支援をよろしくお願い申し上げます。



聖学院小学校 佐藤 慎 校長

本日の総会会場である聖学院小学校は、在校生保護者や卒業生、後援会の皆さんなど、多くの方々のご支援により2014年12月に竣工しました。



聖学院小学校では新校舎建築前から、主体的で対話的な学びの一つの形として協同学習を進めてきました。新しい校舎は、教室の壁をオープンにするなど、協同学習を充実させることをコンセプトとして設計されています。与えられた校舎で、子どもたちがいきいきと、積極的、主体的、対話的な学習を続けていることをご報告します。校舎建築から10年、借入金の返済は今後も続きますし、さまざまな設備の更新も必要となってきています。また、将来の体育館改築のための積立や、体育館内の空調設備を整えるための資金が必要です。ASF募金はそのために持ちさせていただきたいと思っております。

聖学院幼稚園 田村 一秋 園長

1912年に中里幼稚園として建てられた聖学院幼稚園は、今年創立111年目を迎えるようとしています。1世紀以上にわたり多くの方々のお祈りと具体的なお支えがあったことを覚え感謝しております。先日は、年長組の大型制作「のりものランド」やお父さんお母さんと楽しく遊ぶ「ファミリーデー」を実施しました。聖学院幼稚園は創立100周年の年、2012年に今の園舎が与えられ、今では100名を超える園児たちと10数名の教職員が毎日の保育に携わっています。子どもたちが安心して遊んだり、お祈りをしたりする生活の場、子どもたちの大好きなこの園舎は、ASFを通して皆様によって支えられています。これからも子どもたちの笑顔あふれる幼稚園になりますように、皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。



聖学院みどり幼稚園 赤田 直樹 園長

聖学院みどり幼稚園のために、いつもお祈りとお支えをありがとうございます。私の父はディサイプルの流れをくむクリスチャンチャーチ教会の牧師、母もそのグループの牧師の娘という家庭で生まれ、大学時代を聖学院大学で過ごしました。牧師になって最初の任地は滝野川教会、次の任地は秋田高陽教会と秋田幼稚園、今は聖学院教会と聖学院みどり幼稚園で牧師と園長をしています。ディサイプルの伝統なしには自分は存在していません。だから、ディサイプルの宣教師が創立し、自分を育ててくれた聖学院にご恩返しをしたい、その思いでここに立っています。みどり幼稚園は園舎が老朽化し、あちこち不具合が発生しています。問題解決のためには園舎改築が必要であり、そうであるならば、大好きな聖学院のために日本一の園舎を建てようという決心しました。日本一の園舎と園庭で、人格形成の基礎、心の土台を育まれた子どもたちが、神さまの愛の中で人と関わりながら生きる力を育み、これからの世界を作っていくことを信じています。皆さまにはぜひ一緒に夢を叶えるサポーターになっていただければと思います。



○2022 年度 ASF 募金実績報告 各校事業計画および 2023 年度募金目標発表 島村 宣生 法人事務総局長

※2022 年度 ASF 募金報告・寄付者名簿・協賛企業についてはコチラ
⇒ <https://www.seig.ac.jp/asf/donor-name/>

2022 年度 ASF 募金実績

プロジェクト区分	2022年度 目標額 (円)	2022年度募金実績		
		件数	金額 (円)	達成率
学校法人聖学院	3,500,000	201	2,229,996	63.71%
教育および施設設備充実 (大学院)	1,000,000	8	580,000	58.00%
教育および施設設備充実 (大学)	82,000,000	111	60,882,000	74.25%
教育および施設設備充実 (聖学院中高)	123,000,000	93	123,483,824	100.39%
教育および施設設備充実 (女子聖中高)	66,000,000	135	59,651,014	90.38%
教育および施設設備充実 (小学校・幼稚園)	30,000,000	102	27,868,524	92.90%
教育および施設設備充実 (みどり幼稚園)	1,500,000	71	872,027	58.14%
奨学金 (大学)	700,000	65	316,000	45.14%
奨学金 (聖学院中高)	1,700,000	18	1,400,000	82.35%
奨学金 (女子聖中高)	2,000,000	8	80,000	4.00%
奨学金 (小学校)	600,000	1	510,000	85.00%
合計	312,000,000	813	277,873,385	89.06%

2022 年度 ASF 募金目標 3 億 1200 万円に対し、募金実績額は 277,873,385 円、目標達成率は 89.06%でした。

2022 年度、駒込キャンパスでは教育デザイン開発センターにおいて、聖学院中高生と女子聖学院中高生とによる環境エコプロジェクトを推進、聖学院小学校児童も参加して聖学院 SDGs 環境デーのイベントが開催されました。女子聖学院中高では、学業成績優秀な生徒を支援するバーサ・F・クローソン記念奨学金の支給が開始されました。さいたま上尾キャンパスでは、カリキュラム開発を行う教育開発センター、持続可能な社会の形成を目指して活動するサステナビリティ推進センターが発足、学生エンカレッジセンター「フィリア」が四号館 1 階に新設されました。

施設設備としては、ICT 教育環境整備のための無線 LAN 更新工事、AV 機器設置更新工事、女子聖学院中高チャペルのパイプオルガンのパイプオルガン設置工事などが行われました。

ガンオーバーホール、大学の照明 LED 化工事、トイレ改修、空調設備更新工事、聖学院みどり幼稚園の施設改修工事、大学チャペルのパイプオルガン設置工事などが行われました。

引き続き、2023 年度 ASF 募金目標額と事業計画案についてご説明をします。2023 年度の募金目標額は、昨年の実績に基づき、同額の 3 億 1200 万円に設定しました。2023 年度新規事業として、女子聖学院中高体育館屋根防水および外壁工事、聖学院中高教育環境整備のための防犯カメラ更新工事、聖学院小学校 ICT 教育充実のための教室内アップルテレビの更新工事、聖学院大学図書館空調設備更新工事などが計画されています。

今後の建築計画として、駒込キャンパス各校の体育館建築工事、聖学院中高等学校棟建築工事、聖学院みどり幼稚園園舎建築工事、聖学院大学学生厚生建設工事などが検討されています。

以上、2023 年度 ASF 募金目標および活動計画の報告とさせていただきます。



プロジェクト区分	2023年度目標額 (案)
教育および施設設備充実 (大学院)	800,000
教育および施設設備充実 (大学)	75,000,000
教育および施設設備充実 (聖学院中高)	124,000,000
教育および施設設備充実 (女子聖中高)	78,000,000
教育および施設設備充実 (小学校・幼稚園)	30,000,000
教育および施設設備充実 (みどり幼稚園)	1,200,000
奨学金 (大学)	600,000
奨学金 (聖学院中高)	1,500,000
奨学金 (女子聖中高)	300,000
奨学金 (小学校)	600,000
合計	312,000,000

○聖学院創立 120 周年+ディサイプルス派日本伝道 140 周年記念事業 清水 広幸 実行委員長



2023 年、1903 年の聖学院神学校創立から 120 周年、1883 年のディサイプルス派日本伝道開始から 140 周年を迎えます。120 周年記念事業の一環として、120 周年のロゴマークを作りました。7つのオリーブの実の聖学院の 7つの学校を表し、十字架を囲む大小の鳩はそれぞれ生徒と教師の象徴であり、同じ目線で伴走する聖学院の姿勢を表しています。原点を想起させるきっかけとなるように、ディサイプルス派日本伝道 140 周年の文字をマークの下に入れてあります。

2023 年 10 月 28 日 (土) には大学チャペルでの 120 周年記念式典とパイプオルガン奉献記念音楽会、10 月 26 日 (木) には聖学院小学校と聖学院幼稚園の合同礼拝 (於 聖学院中高講堂)、10 月 30 日 (月) に聖学院中高と女子聖学院中高の合同礼拝 (於 聖学院中高講堂)、みどり幼稚園の記念礼拝 (於 大学チャペル) が予定されています。120 周年を契機に、聖学院教育のすばらしさを多くの方に知っていただき、よりよい教育を実現するための ASF 募金活動を推進していければと願っております。



○オール聖学院の歌

歌唱リード：本田 晃 聖学院小学校教諭
伴奏：官野 菜摘 聖学院小学校教諭



○閉会祈祷 山口 博 聖学院長

オール聖学院の歌を歌い、山口博院長の閉会祈祷をもって、ASF 総会・推進委員会は終了しました。

ASF 推進アンケートにご協力をお願いします
⇒ <https://forms.office.com/r/pbCsN6W5Zk>



【ASF 事務局】(広報センター)

E-Mail : pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

Tel : 03-3917-8530 Fax : 03-5907-7034